

2014年度 政策提言ツアー 実施報告書

実施日:2015年2月13日

訪問先:財務省(主計局)、厚生労働省、農林水産省、国土交通省(住宅局)

参加者:赤井ゼミ¹学生10名、ISFJスタッフ3名、引率教員1名(赤井(大阪大学))

内容

1. 政策提言ツアー企画の経緯.....	3
2. スケジュール.....	3
3. 参加者コメント.....	4
財務省訪問.....	4
厚生労働省訪問.....	6
農林水産省訪問.....	7
国土交通省訪問.....	8
その他:全体の発表・質疑に関する感想.....	9
霞ヶ関の省庁への政策提言ツアーを行う意義について.....	10
今後のツアーのあり方について.....	12
4. 政策提言ツアー実施の効果:引率教員のコメント.....	13

¹ 連絡先:赤井伸郎(大阪大学国際公共政策研究科教授) akai@osipp.osaka-u.ac.jp



1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が2014年度に執筆した論文(題目「後発医薬品普及促進への一向 ～医療費適正化を目指して～」)が、ISFJ(日本政策学生会議)において、政策提言賞を受賞した。この賞を受賞したゼミは、論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行う慣例にある。受賞した論文は、後発医薬品の普及に関わる論文であり、この政策に関わる官庁として、厚生労働省を訪問することにした。また、その省庁の予算査定を行う財務省も訪問することにした。さらに、このテーマのほかに、少子化対策、中古住宅、水産物輸出に関する論文を執筆したこともあり、財務省において、これらのテーマに関わる事業の査定を行う担当者友議論することにし、加えて、農林水産省、国土交通省(住宅局)も訪問することにした。本ツアーに御協力いただいた省庁の皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

2. スケジュール

- 10:00-12:00 財務省主計局(全班発表)
(国土交通担当、厚労省担当、農林水産担当、内閣府(少子化)担当)
- 13:00-14:00 厚生労働省医政局(製薬班発表)
- 14:30-15:30 農林水産省食料産業局(水産物輸出班発表)
- 16:00-17:00 国土交通省住宅局(中古住宅活用班発表)

3. 参加者コメント

財務省訪問



各省庁担当者との写真





- 財務省：限られた時間の中での議論ということで、事前に提示した 3 つの論点に沿ってフィードバックをオーガナイズしてくださった点、さらにそれぞれの返しが的を射っていて説得的だった点がさすがだと思います。また、国と地方の役割の違い、行政がどこまで踏み込むか、現行政策の位置づけなどを絡めてお話ししてくださり、政策を考えるうえでこの点が私にかけていた視点だと気付くことができました。
- 財務省ということで、個人的に特に、模擬事業レビューの際に議論した政治色の強い「地域少子化対策強化交付金についてもっと切り込みたい、さらに提言でも推している地域少子化対策強化交付金の交付基準に関して聞き出したい」という思いを持って臨んだのですが、反論しにくい筋の通った論を返されて私たちの提言を守りきれなかったです。
- 農水産物輸出について、財務省の予算の側面からお話をいただいた。中・長期的な目標の施策について、もっと具体的な数値も交えて議論出来ればよかった。
- 財務省ではメディアで知れないような、予算を決める上での話などを聞いて貴重な機会になった。住宅担当の方から具体的な話を聞けなかったのは少し残念だった。
- 財務省の方からは、主に予算的な視点から、お話をいただいた。自分たちの政策提言について、専門の方々としっかりと話し合えその実現可能性などについて意見が聞けたのが貴重だった。
- 財務省においては、予算面における実現可能性について考えることができた。
- 必要不可欠とはいえぬ補助金等、安易な提言にならないようにすべきだと感じた。また、予算配分等を参照して官僚としての視点の重点度ももう少し聞きたかった。
- こじんまりとした部屋の中で発表・質疑応答を行ったことがかえって学生と官僚の方の距離を縮めることに成功していたように思える。発表の内容やテーマによって担当する官僚の方が入れ替わるシステムはユニークでおもしろいと思った。
- （財務省ならではの視点である）予算（財政制約）や政策コストについては、例年（論文執筆においては）なかなか手が及ばないところであり、勉強すべきであると感じました。

厚生労働省訪問



- 厚労省：比較的大きな部屋を用意していただき、また忙しい中多くの職員の方が参加してくれて、対応の良さを感じた。質疑応答もしっかりと会話のキャッチボールがなされており、聞いている側も興味をそそられるものであった。
- 厚生労働省：財務省でも言えることだが、大勢の方が講評してくださったので、非常に有意義なツアーだと感じた。
- 厚労省：担当の方が薬品についても専門知識もとても豊富で、さすがだと感じました。
- 厚生労働省では、パンフレットが配布され、現在の取り組み方が分かりやすかった。
- 厚労省では、都道府県における後発薬の普及促進策の前進を感じる事ができた。
- 厚労省では、夏にヒアリングをさせて頂いた方々に直に研究成果を発表でき、達成感もひとしおでした。最近の取り組みや状況を踏まえた議論では新たな収穫もあり、さらに研究を深めたいとまで思いました。

農林水産省訪問



- 日本でしか収穫できない限られた魚種を外部へアピールするための効果的な具体策を見つけることの難しさを感じた。
- 部屋のポスター等、日本や和を推したものが多く、なんとなく雰囲気が好きでした。ストラップをもらえたのもうれしかったです。
- ”おいしい” のグッズをもらえて嬉しかった。
- 立派な設備を準備してくださった。農水省の官僚に加えて、JETRO など複数機関の方にお越しいただき、多くの角度から意見をいただけた。
- 水産庁の方と議論が出来なかったのが残念だった。

国土交通省訪問



- 国土交通省の方々からは主に実際の実務や政策提言の内容についてお話をした。自分たちの政策提言について、専門の方々としっかりと話し合え、その実現可能性などについて意見が聞けたのが貴重だった。
- 住宅班の発表に関しては、今まで大会でも大阪府でもあまり触れられなかった、瑕疵保険の提言について評価していただいたのがとても光栄だった。財務省と国土交通省で質問を変えていなかったなので、その点については反省した。
- 瑕疵保険について議論できてうれしかったです。もっと議論したり、懇親会のような形でおしゃべりしたりできればうれしかったです。
- 不動産会社出身の方など、様々な方に発表を聞いていただいたのがとても良かった。
- 国土交通省は、住宅班以外のゼミ生が議論を聞き取りにくかった。
- プロジェクターがあればよかった。

その他：全体の発表・質疑に関する感想

- 直前に訪れた大阪府と比べ、エビデンスベースで政策推進されているように感じました。それ故に、定量的な分析で解決策を示した点を高く評価し、分析結果を興味深く考察して頂き、僅かながら拙稿で政策立案の現場に貢献ができたことを実感し、やりがいを感じました。かなりタイトなスケジュールでしたが、要点を捉え、的確に講評をして頂き、良い議論を交わすことができました。
- どの省庁でもとても丁寧に対応して下さった印象を受けました。
- 省庁ごとに雰囲気全然違って、お堅いイメージから親しみやすいイメージに変化しました。
- 事前に論文やpptに目を通し、丁寧に指摘をして下さりとてもありがたかったです。1年近く扱ってきたテーマには愛着もありますし、それを専門にされている方といろいろとお話しできることが率直に楽しかったです。(国土交通省では、瑕疵保険の話であんなに盛り上がったのは初めてでした笑)
- 発表してみて、大阪府でも霞が関でも攻められる点は比較的同じでありまだ詰めるべき点があったと感じました。
- どの省庁でも学生の提言をしっかりと聞いてくださり、きちんと説明して下さった点が印象的でした。
- 自分の論文における政策研究がまだまだ未熟であり、もっと内容の濃いものにすべきだったと反省。学生と省庁の方との距離がもう少し近い方が議論しやすかった。
- 私たちの考えについて、誠実にご意見、ご返答を下さり、とても実りのある討議になったと思います。
- 学生の提言であっても真剣に聞いてくださり、現状を踏まえたうえでどういった形で実現可能か、どうすれば可能になるかなどを丁寧にお答えくださり、役人としての考え方など、非常に勉強になった。
- 自分の発表に関して、また他の班についてもであるが、現状分析の基本的な部分は相手方も我々以上によく知っていると思うので事前に発表内容をスリム化できていたら政策提言や分析についてより深く議論できたのではないかと思う。
- 質問内容に関して、多方面な視点から回答をいただき、問題意識への視野の持ち方が広がり、また議論を通じて考えを深めることができ、大変有意義な時間となった。
- お送りした拙稿を基に、一部提言政策を具現化して頂いたお話を伺い、政策提言賞受賞と同じくらいの喜びを感じました。
- 学生の質問に対する官僚の方の対応は、実際の政策立案担当者ならではのものであるという感想である。人によってはかなり深い知見を与えてくれることもあり、参加して得るものは大きかった。

- 発表時間と質疑応答の時間配分や進め方はちょうどよかったと思う。ただ事前にパワポにまとめてきた質問をすべて消化できる時間はなかったように感じた。(でも、政策提言を行う方が大丈夫であれば全然問題ないと思います)
- 発表時間に関しては適切であったと思います。しかし、大事な質疑の時間が少し短かった気が致します。
- 全体的にとっても時間がタイトでした。お忙しい中お時間を作っていただいているので仕方がないと思いますが、もう少し余裕があればいいなと思いました。
- 官庁の方々もかなり忙しい時期にツアーをしていただいているのであまり無理は言えないが、発表を聞いたうえで官庁の方の講評のようなものにより時間を使えるようになれば今後の学習につながるように感じた。
- 省庁内に入ることさえあまりない経験であるのに、そこで国を動かしている方々と実際にお話しでき、学べる機会をいただき、今後のゼミ活動に向けてのモチベーションになった。
- 実際に普通では入ることのできない財務省や厚生労働省に入ることができて正直感動いたしました。また今後の要望といたしましては財務省には見学ができるような時間もあつたらいいなと思います。また厚生労働省にも館内見学の機会があればいいなと思います。
- 財務省では、4班すべてが発表したが、時間がタイトだった。発表する時間を減らし、各分野の担当者との個別の議論の時間を長くした方がより深い議論ができるのではないかと思います。あと、お昼ご飯をもう少しゆっくりに食べたいです(笑)



霞ヶ関の省庁への政策提言ツアーを行う意義について

- 国の資料からだけでは読み取れない業界団体とのかかわり方の課題など、裏事情のようなものも聞くことができ、とても貴重な機会であり、来年以降の政策提言に活かせるものを多く得られる場であると思います。
- **半年かけて練り上げた政策を実際に国の役人の前で発表し、フィードバックをいただく機会は、私たち学生にとって勉強をするモチベーションになる上、さらに良い提言を考えるうえで非常に貴重な機会**だと思えます。
- **論文大会を最終目標にするより、官僚へ直接政策提言するのだ、と意識して論文執筆の方が明確な目的をもって取り組めると感じた。**

- 論文中で触れている国からの交付金や政策の意図について、自分たちの考えを聞いていただいたうえで直接質問することができ、現実の政策運営についての視点を得る機会になる。
- 国が主体となっている分野や政策の実態について詳しく知ることができる。また、特に財務省等で学生という身分でしか聞けないような（裏の）現場の話を知ることができる。
- 日本をよりよくするための提言であるから、官僚の方々に直接提言できるのは非常に有意義な経験であった。
- やはり、ISFJでの政策提言の大会を最終目的にするのではなく、実際に実務に携わっている方々に聞いていただき、意見を聞くことで実際政策はどのように動いているのか、その際に重要なことは何なのかが聞ける機会があることは、政策提言を考える際の大きなインセンティブとなる。
- 霞が関で働いている方に実際に自分たちの研究結果を発表することで、改めて自分たちの論文テーマについての理解を深めることができた。また、官僚の方と学生が直接意見交換をするといった機会はなかなかないと思うので、お互いに刺激のあるものになると思う。
- 実務経験者の立場からの助言を交え、論文および政策提言の妥当性を実際に議論することができ、注目点や討議の進め方の参考になるうえ、一年間の研究を直接政策立案主体に提言できる良い機会であること。また、討議を通し自分たちが考慮にかけていた点や、政策を考えるにあたっての視野の狭隘さを改めて感じさせられ、次年度への改善点となったことも収穫である。
- 実社会の問題を議論する公共政策を専攻し、また論文にその解決策をまとめた学生にとって、政策実務者との議論は最も貴重な学びの場であると思います。また馴染みの薄い省庁に赴き、担当者と顔を合わせることで、中央官庁が身近な存在になり、具体的に相手をイメージして政策立案が出来る点においても、意義のある活動だと考えます。
- 学生にとっては、実際に現場で働く方から講評をいただけるので、その講評を踏まえて今後の活動を充実させることができる点で意義がある。
- 省庁で働く方々にとっても、政治に反映されにくい学生の政策提言を聞くことで、仕事において何らかの刺激がある（抽象的ですがすみません・・・）と考えられるので、その点で意義があると思う。
- 自分達が独自に考えた政策提言が実際に政策をつくっている人に伝えて実現可能性としてどうなのか意見を頂けることだと思います。
- ISFJ スタッフより：例年、ISFJ の論文は各方面から高い評価をいただいていたが、その成果物を運営のホームページに掲載するにとどまっていた。しかし、ここ 2 年は政策提言ツアーを実施することにより、内輪で完結させるのではなく、実際の政策立

案担当者に対して発表を行うことにより、ISFJ の理念である「社会に対して発信していく」ことが少なからずできていると考える。

今後のツアーのあり方について

- 論文執筆における目的意識としても、自らの経験としても貴重な機会なので、あとはどれだけ学生が参加しやすいか。日程・費用面が主な問題。試験直後が最も参加しやすいと思われる。費用面に関してはゼミの口座などから多少工面してもいいのでは。
- 来年はぜひ農林水産省で昼食を食べてみたい。また、発表班でない班の学生もきちんと議論を聞けるような体制が必要かと思う。
- 非常にいい勉強になったので、来年もぜひ参加したい。そのためにも、日本の未来に少しでも貢献することができるような論文作成を目指していきたい。
- 霞が関の方々にも、来年度の成果発表が楽しみだと思ってもらえるような、学生が国に対して意見や考えを発信できる場として、今後も持続的に開催されればと思う。
- 今回は財務省・厚労省・農水省・国交省を巡り、また決勝当日には経産省の方も来られていたので、こうしたパイプを絶やさず、来年に活かして頂ければと思います。
- 財務省・厚労省とも時間通りに動くことができなかつたのがやや心残りである。特に厚労省のエレベータの混雑による遅れは、もう少し早めに到着していれば回避できたものであった。
- 厚生労働省を訪問した際、昼食後のラッシュとかち合ってしまった、移動に時間がかかり開始予定時間を過ぎてしまったので（私の記憶違いだったら申し訳ないです）、今後訪問する際は、建物内での移動時間も考慮してスケジュールを組んだほうがよいように感じた。
- 今後、政策提言内容に応じて、対応できる省庁が増えていければ良いと思います。
- ISFJ スタッフより：赤井ゼミとしては今後も実施する方針だと思いますが、やはりISFJ の恒例行事としてこのような機会を続けて頂きたいと思いました。

4. 政策提言ツアー実施の効果：引率教員のコメント

1)

このたび、昨年に引き続き、霞ヶ関の省庁を訪問する機会を得たことは、学生にとって、日ごろ味わえない実体験をする貴重な機会となった。ゼミでは、さまざまな社会問題を取り上げ、その問題を解決するための政策のあり方を議論している。経済学的手法を駆使して、説得力のある解決策を示す努力をし、論文大会では、審査委員に評価してもらおう。ここでは、論文としての体裁や政策の妥当性を評価するものの、その評価者は必ずしもその分野の専門家ではない。専門家でない相手に対しても説得的な議論をする必要がある。そのためには、現実には生じている問題の把握に加え、現在、その問題にどのように対処し、どのような問題が残されているのかを正確に知ることが重要である。

実際に、その問題解決のために政策の制度設計を行っている担当者と、政策課題について議論することは、これまで勉強してきた課題を正確に把握できていたのか、どのような視点が抜けていたのかを知るきっかけとなる。これは、単に、論文を改良できるだけでなく、今後の政策提言において注意すべき点も学ぶことができる。その意味において、将来につながる経験となったであろう。

また、いろいろな省庁を訪問したことで予算査定を行う財務省と、事業を実施する省庁との違いなど、政府の統治の仕組みも学ぶ良い機会となったようである。このツアーは、学生たちにとって、さらに深く社会を考える機会となり、大学を出た後、より一層、社会に貢献していくきっかけとなったと思われる。

2)

政策提言を目的とする論文の価値は、分析スキルや分析対象、データ等の新規性だけでなく、「実際に政策として実現可能な提言となっているのか」という点からも決まる。今回の政策提言ツアーを通じ、学生たちに対して政策立案とその実行を担当されている方々から直接のご意見・ご助言を頂けたことは、学生にとって更なる学習の意欲につながったように思う。特に、現在の政策がどのようにどこまで進められており、今後どのように進めようとされているのかという、担当されている方ならではの話を伺えたこと、そしてそのお話の流れの中で学生たちの政策提言がどのように位置づけられ、実現性を持たせるためにどのような視点が必要になるのかを教えていただけたことが印象的であった。お忙しい中にもかかわらず学生のためにお時間を作ってくださった全ての方々に感謝する。